

# 格安スマホ木窮地

## 大手値下げ「すみ分け」崩れる

携帯大手3社が割安な新料金プランを相次いで打ち出したことで、格安スマホ業界が窮地に追い込まれている。低価格が売りだったはずの格安各社が大手と代わり映えしなくなっているためだ。大手との価格面での「すみ分け」が崩れ、一部では淘汰の動きも出てきそうだ。

■大手の値下げで格安スマホ各社は対応を迫られている

NTTドコモソフトバンクKDDI (au)	20GBで2980円 (auは通話定額のオプション込み)	新プラン検討中
日本通信	20GBで1980円	
Y.U-mobile	20GBで3980円 (1990円の動画閲覧含む)	新プラン検討中
HISモバイル	15GBで3720円など	
IIJ	主力の3GBで1600円など	新プラン検討中
オプテージ (マイネオ)	主力の3GBで1510円など	
UQモバイル	3GBで1480円	新プラン検討中
ワイモバイル	3GBで1980円	

※は大手3社系。プランは公表済みのもの



携帯大手に対抗して格安スマホ各社は対応を迫られている

▼オピニオン面へ交論

格安スマホは大手から通信網を借り、実店舗をあまり展開せずにコストを抑えることで、低価格のサービスを提供してきた。主戦場は月1千円台でデータ容量3〜5ギバイト (GB) 程度のプラン。大手のメインブランド (4千〜7千円程度) と価格差が大きく、安さが最大の売りだった。ところが昨年12月以降、NTTドコモなど大手3社は月額2980円で20GB (5分以内の通話し放題付き) の新プランを相次ぎ発表した。容量が大きめのプランでは大手のほうが格安より安くなる「逆転現象」まで発生。格安勢は対抗策を迫られる事態となった。

USENやヤマダ電機系のY.U-mobileは19日、有料の動画配信サービスを含む20GBプランを、5990円から3990円に下げると発表した。旅行大手エイチ・アイ・エス (HIS) 系のHISモバイルは、20GBで一定時間の無料通話付き新プランを2月から1千円台で提供する方向で調整中だ。猪俣英知社長は「大手に敵しいところへ踏み込まれた。新プランで大手からの乗り換えを狙いたい」と語る。日本通信は20GBで税抜き2980円の新プランを準備していたが、昨年12月のドコモの新プラン発表に對抗し、16GBで1980円に急きよ変更。3月から20GBに増やすという。インターネットイニシアティブ (IITJ) やマイネオを展開するオプテージも新プランを検討中だ。

総務省は格安スマホ会社を大手に対抗させようと、通信網を借りる際の利用料引き下げを進めてきたが、

格安のシェアはようやく1割超になったところだ。菅義偉政権は昨年10月に今後3年で通信回線の利用料をさらに半減させる方針を示した。ただ現状では大手の新プランへの対抗が困難として、格安の業界団体は18日、方針を前倒しするよう総務省に要望した。中

央大学の実積寿也教授 (通信政策) は「ほかに稼ぐ手段を持たない格安事業者は淘汰されていくだろう」と指摘する。(豊岡亮、井上亮)